

放射線リスクコミュニケーション

相談員支援センターだより

福島の未来を共に考え、創り、
発信する

コミュタン福島



コミュタン福島は県民の皆さんの不安や疑問に答え、放射線や環境問題を身近な視点から理解し、環境の回復と創造への意識を深めてもらうための施設として平成28年7月、田村郡三春町にオープンしました。放射線やふくしまの環境の現状に関する展示や360度の映像を体験できる全球型シアターなどを備えているほか、親子で参加できるイベント等も定期的で開催するなど、学びや体験からふくしまの未来を考え、創り、発信するきっかけとなる場を提供しています。

——コミュタン福島の展示室には映像や模型、触れて学べる展示が多い印象を受けますが、これらの展示物にはどのような思いが込められていますか。

コミュタン福島のコンセプトに「ふくしまの未来を描く。」というものがあります。ふくしまの現状や放射線・環境問題について楽しく学び、ふくしまの環境回復と創造への意識を深めるとともに、それぞれの立場からふくしまの未来を考え、創り、発信するきっかけとなる場になることを目指しています。このような目的を意識しながら展示物を作成しました。

——来館者の方とお話する際に心がけていることはありますか。

コミュニケーションを図ることを重視し、一方向ではなく双方向となるよう、私たちが何を求められているかを感じ取りながらお話しすることを心がけています。また、対応したスタッフによって説明が違ふといったことがないように、月に1度研修を行い、どのような質問を受け、どのように回答したかなど、最新の情報を共有するようにしています。コミュタン福島で見たことや触れたこと、話したことが、ふくしまの現状や放射線・環境問題等に興味を持っていただく入口となるように努めております。

——来館者の方から不安の声を聞いたり質問を受けたりすることはありますか。

放射線の健康影響について質問を受けたことがあります。例えば、「どの程度の量の放射線を浴びると危険か」という質問を受けたことがあります。すぐに数字を示すようなことはせず、放射線防護の基準値や疫学的な観点のお話をしたうえで、質問された方が何をもって危険と捉えるかを一緒に考えました。話をすることは意見の押し付けにならないように気をつけています。

—学校の利用も多いと思いますが、対応する際に工夫していることはありますか。

学校によって案内や説明に違いが生じないように心がけておりますが、学校ごとに放射線教育の進捗や児童や生徒の皆さんの理解度が異なるため、予約を受けた際は事前にご要望をお聞きし、それぞれの目的に応じたメニューを提供しています。学校向けに「放射線」「新エネルギー」「自然環境」の3つの分野の体験研修メニューも用意しております。

—コミュタン福島では一般の方が参加できるイベントも定期的 to 実施していますね。

週末に開催している体験プログラム等、親子や地域の皆さんにも参加していただけるイベントを実施しています。また、小さなお子さんでも楽しんでいただけるように、ある程度低い年齢層をターゲットにしたイベントが多いです。同じメニューに参加した場合でも、新しい気づきや発見があるように、毎回少しずつ変更を加えて実施しております。

—幅広い方に対応できるように工夫しているのですね。今後取り組んでいきたいと考えていることはありますか。

コミュタン福島は令和3年7月でオープン5周年を迎えますが、一般の方への認知度はまだ低いように思います。コミュタン福島の存在や取組を多くの方に知っていただけるよう、より一層情報発信に力を入れていきたいです。また、新型コロナウイルス感染拡大の影響により、なかなか来館することが難しい方のために、先日ホームページ上で館内のバーチャル見学やイベントの様子を見ることができ「おうち DE コミュタン」を公開しました。今後も「新しい生活様式」に適した対応を実施しながら、利用促進に努めていきたいと考えています。

—来館者の方と話す際の心がけやイベントの着想等、大変勉強になりました。本日はありがとうございました。

複数市町村意見交換会の例 中核市意見交換会

県内中核市である福島市、郡山市、いわき市の放射線健康管理業務担当者が、これまでの取組や今後の方針、考えについて情報共有と意見交換を行う会を、2月3日、ビッグパレットふくしまで開催しました。



はじめに各市から今年度までの取組および次年度の外部被ばく測定や内部被ばく検査、相談対応、放射線に関する講座や情報発信等の体制について情報共有を行いました。また、今後の方針について、震災から10年が経ち、業務縮小が予想される中でどのように対応をしていくか各市が考えを述べました。

次に行った意見交換ではファシリテーターにフリージャーナリスト・キャスターの葛西賀子先生をお招きし、テーマの投げかけや意見の取りまとめをしていただきながら、皆さんで意見を出し合いました。相談対応について「相談対応ができる職員を養成する体系がないため、長期的に職員を養成してい

くことを考えなければならない」、「自治体のみで対応することが難しい場合もあるため、相談員等が集まって情報共有ができる機会があると良い」といった意見や、市民へのアプローチについて「定期的な情報発信や相談対応を続けていくとともに、国や県、各市町村も長期的な視点でケアを行う必要があると思う」、「相談は以前より少なくなったが、解決したことが理由とは限らないため、参加しやすいテーマでの座談会等の開催を検討し、情報発信を続けたい」といった声が上がりました。



会の終了後に行ったアンケートには「新型コロナウイルス感染拡大の影響でなかなか思うように事業展開ができない中で、他市の皆さんと情報共有ができたことや同じような悩みを持って業務に当たっていることが分かったことが良かった」、「相談員だけでも市町村の区分なく情報共有ができるようにしたい」等の意見があり、皆さんがそれぞれに今回の意見交換会を有意義な機会と感じていただいた様子でした。

住民セミナーの例 郡山市立行健小学校 放射線教育

郡山市立行健小学校の4年生を対象に2月25日、26日の2日間にわたり放射線教育を行いました。講

師に原子力安全研究協会の山田孝一先生を迎え、放射線の基礎についての講義、霧箱観察、放射線の測定実習を行いました。



放射線の講義では、放射線の性質、放射線は測ることができて量が多すぎると危ないこと、放射線は人から人にうつらないことなどを学びました。次に霧箱で放射線の飛跡を観察しました。児童の皆さんは飛跡の形や飛ぶ速さが違うこと、様々な方向に飛んでいることに気づき、興味深く観察をしている様子でした。放射線の測定実習では、GM管式サーベイメータを使って、肥料、昆布、ポテトチップス等の身近なものに含まれる放射線量を測定しました。30秒間にいくつの放射線が検出器に入ったかを測り、数が多く出たものがあると驚きの声上がるなど、楽しんで学習することができている様子でした。



授業の最後には質疑応答と感想の発表を行いました。一例を紹介すると、「放射線を受けると、どのように危ないのか」という質問に「少しの量であれ

ば、体が持っている治す力によって傷が回復するが、たくさんの量を受けると治す力が追い付かず、病気などになる可能性がある」と回答しました。また、児童からは「学習したことを家族にも伝えたい」、「放射線という言葉は聞いたことがあったが、これまでどういうものかわからなかった」との声もありました。学校の先生より「子どもたちの発達段階に合った内容だった」との感想もいただき、児童にとって放射線について学ぶ良い機会になったのではないのでしょうか。

実務に関する支援の例 浪江町 遊歩道の線量測定

浪江町健康保険課より、現在も町内の放射線量に不安を抱いている住民の方への参考資料とするために、請戸川沿いの遊歩道である請戸川リバーラインの放射線量を測定したいとの要望を受け、2月9日、実務に関する支援として線量測定を行いました。



今回の測定では NaI シンチレーション式サーベイメータと DOSE e nano の2つの測定器を用いて、空間線量と個人被ばく線量を測定しました。空間線量の測定は道の駅なみえの駐車場から開始し、橋やモニタリングポストの付近等、計 19 カ所のポイント

で行いました。測定の結果は 0.07 ~ 0.43 μ Sv/h でした。また、1 時間半ほど測定を行いながら請戸川リバーラインを歩きましたが、個人被ばく線量は 0.34 μ Sv でした。これは胸の X 線健診 1 回当たりの被ばく線量が 60 μ Sv 程度とされているため、その 100 分の 1 以下の値です。



請戸川リバーラインは「ふくしまの遊歩道 50 選」に選定された浪江町の観光名所です。春になると、約 1.5km にわたり 120 本のソメイヨシノが咲き誇り、夜にはライトアップされた満開の桜を楽しむことができます。請戸川リバーライン沿いは春祭りの会場にもなっており、地域の皆さんの憩いの場となっています。なお、平成 31 年に震災後 8 年ぶりとなる春祭りが開催されましたが、昨年は新型コロナウイルス感染拡大の影響でやむなく中止となりました。今回の測定結果が放射線量に不安を抱いている住民の方に届き、今後、気兼ねなく散歩や祭りを楽しんでいただく一助となれば嬉しいです。



放射線リスクコミュニケーション相談員支援センターだより No.26

発行：放射線リスクコミュニケーション相談員支援センター

連絡先：〒970-8026 いわき市平字小太郎町1-6
いわきセンタービル5階、6階

フリーダイヤル：0120-478-100

FAX：0246-35-5158

E-mail：F-sodan@nsra.or.jp

